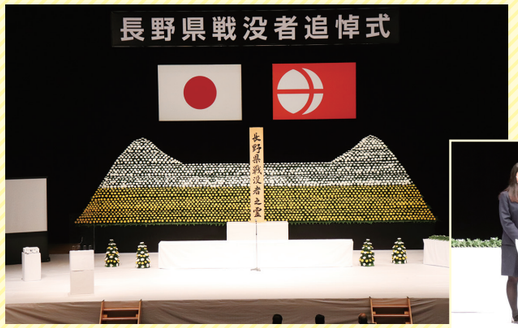
平和への取り組み



長野県戦没者追悼式

県出身の戦没者を追悼し平和を祈るため、1966年以降、毎年、戦没者追悼式を行っています。

▲ 平和へのメッセージ発表

国歌斉唱、黙とう、献花のほか、高校生や大学生による平和へのメッセージ発表を行っています。

被爆アオギリ二世

広島・長崎に投下された原子爆弾により、町は廃墟と化しました。広島の爆心地から1.3kmの場所で被爆したアオギリは熱線と爆風で枝葉と幹の半分が失われましたが、翌年の春になって芽吹き、広島の人々に生きる勇気を与えました。

県では、被爆アオギリの種を発芽させて育てた「被爆アオギリ二世」を広島市から譲り受け、県庁の北側で大切に育てています。

平和の語り部

戦争体験者の高齢化が進む中、先の大戦の記憶を風化させることなく、戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代に語り継いでいくことが重要です。

日本遺族会は国の補助事業も活用しながら学校等での語り部事業を全国で実施しており、長野県遺族会も取り組んでいます。

▲ 長野県遺族会による高校での語り部の様子

戦争の歴史を学ぶ・調べる

県立歴史館

所在地 千曲市屋代260-6
TEL 026-274-2000（代表）
FAX 026-274-3996
入館料 高校生以下無料
https://www.npmh.net/

長野県の歴史に関する調査研究を行い、埋蔵文化財や歴史資料の収集・整理・保存を行っています。歴史資産を引き継ぎ、県民が歴史を学び、交流する場を提供します。

県立歴史館公式HP　県立歴史館公式 X

満蒙開拓平和記念館

所在地 下伊那郡阿智村駒場711番地10
TEL･FAX 0265-43-5580
入館料 小中高生300円
https://www.manmoukinenkan.com

多くの犠牲者を出した満蒙開拓の史実を通じて、戦争の悲惨さ、平和の尊さを学び、次世代に語り継ぐとともに、国内外に向けた平和発信を行っています。

他にも、地域の図書館・博物館などで情報を収集することができます。おじいさんやおばあさん、近所に住む方に尋ねてみても良いでしょう。

学習に役立つサイト

QR コードからアクセス！

厚労省 中国残留邦人等の証言映像（You Tube）

昭和館 戦争体験者の証言映像（You Tube）

沖縄平和祈念資料館（沖縄戦に関する証言映像等）

発行 長野県 健康福祉部 地域福祉課 〒380-8570 長野市南長野幅下692-2 TEL.026-235-7094 FAX.026-235-7172 2026年3月

長野県　平和学習パンフレット

沖縄「信濃の塔」を起点とした平和継承事業

長野県の戦争について知ろう

ー平和へのアクションー

沖縄「信濃の塔」

【建立年月日】　1964年4月6日
【碑石の大きさなど】　高さ 330cm／幅 300cm ／重さ 11,285kg

沖縄県糸満市（いとまんし）にある慰霊碑「信濃の塔」は、太平洋戦争（1941～45年）で犠牲になった長野県出身の方々を慰霊し、世界の平和を願うために建てられました。この塔が建つ糸満市摩文仁（いとまんしまぶに）地区は、戦争末期に激しい戦いが行われた場所で、現在は「沖縄県営平和祈念公園」として資料館などが整備され、多くの方が訪れています。この戦争で、長野県では５万５千人余りの方が犠牲になり、いまも県内に多くの戦争の爪痕が残っています。「信濃の塔」は、ふるさと長野県を思いながら遠い外国の地などで亡くなった方を慰めるため、県内各地から集めた特産の石を固めて作られており、ご遺族をはじめ多くの方々の思いが込められています。

県では、未来を生きる皆さんに、戦争の歴史や、この塔にこめられた平和への祈りを知っていただき、次世代に受け継いでいただくことを願っています。

悲惨な戦争の歴史を学び、戦争を二度と繰り返さないよう、平和の尊さや命の大切さを受け継いでいこう

長野県健康福祉部地域福祉課
監修:安曇野市豊科郷土博物館　館長／元長野県立歴史館総合情報課長　原 明芳

先の大戦では、兵士となった多くの人々が、中国大陸、アジア各地、南太平洋などの戦場で、家族を思いながら犠牲となりました。最後は、沖縄が戦場となり、各地は空襲を受け、広島・長崎に原爆が落とされ、1945年8月15日に戦争は終わりました。犠牲者は300万人を超えます。

現在の平和と繁栄が、日本国民の多くの犠牲の上にできあがったことを忘れてはなりません。さらに、戦場となった国々の多くの人々に犠牲や苦痛を与えたことも忘れてはなりません。

1 兵士となった県民 …70年ごしの帰郷

19万人の県民が兵士となって戦場に向かい、5万人余りが戦死しました。平成27年頃、安曇野市に、「武運長久 ○○君」と寄せ書きが添えられたボロボロの日の丸が届けられました。ニューギニアで戦死した市出身の兵士が戦場へ持っていったものです。アメリカ軍の兵士が持ち帰り、70年ぶりに故郷にかえってきたのです。

長野県から遠い異国の地へ。
家族とも離れ、どんな気持ちだったでしょうか。

写真1 返還された日章旗（安曇野市豊科郷土博物館蔵）

写真2 空襲で破壊された長野機関区
（「爆撃された長野機関区1」長野県政史資料（写真集）19・事件・戦争・社会運動 長野県立歴史館所蔵）

2 長野空襲 …破壊された街

終戦（8月15日）の2日前、午前7時頃。現在の東長野病院、長野駅、長野機関区、信濃川田駅跡、長野飛行場があった長野市大豆島、川合新田、松代町、篠ノ井駅などが、米軍艦載機により空襲を受けました。犠牲者は47名にのぼります。松岡神社（長野市松岡）の近くでは、防空壕が押しつぶされ、6才と9才の女の子、12才の姉に背負われた2才の男の子が犠牲となりました。県内では、同じ日に上田市、終戦の日には上田市、長和町が空襲を受けました。

3 勤労動員 …学校を離れて

多くの男の人たちが戦場に行ったため、代わりに旧制中学・女学校（現在の中・高校生）の生徒たちが、教室を離れて工場や農家などで働きました。伊那高等女学校4年生（現在の伊那弥生ケ丘高校1年生）270名は親元を離れ、名古屋の戦闘機製造工場で働いていました。終戦の年の3月13日、工場が空襲に遭い、当時16歳の女学生が命を落としました。

今の高校生が、かつての伊那高等女学校の動員について学習し、県の追悼式で思いを発表しました。
→裏面へ

写真3 慰霊碑（伊那弥生ケ丘高校）

鎮魂
ふるさとに
帰り来ませと
石に彫り
生き残りたる
者は悲しむ

4 学童疎開 …大都市から長野へ

アメリカ軍の空襲が始まると、大都市の小学校3年から6年生の子どもたちは地方への避難をしました。長野県は、東京都から全国最多の3万人以上を受け入れました。お寺、旅館などを宿舎とし、地元の学校も協力して授業が行われました。食料が不足する中、親元から離れた生活は厳しいものでした。空襲によって両親を失ってしまった子どももいました。

写真4 別所温泉を散策する疎開の子ども（上田市立博物館蔵）

写真5「糸洲の壕」内部

壕※とは、自然の洞窟や人口の地下壕のことです。住民の避難場所、軍の陣地、病院などとして利用されました。
※沖縄では「ガマ」と呼びます。

5 長野県と沖縄戦…糸洲の壕

沖縄県では、太平洋戦争末期に県民を巻き込んだ地上戦が行われ、長野県から出征した兵士も1300人以上が亡くなりました。

野戦病院だった糸洲の壕（ウッカーガマ）で、「ふじ学徒隊」の女性看護師25人を率いた、佐久市出身の軍医である小池勇助少佐は、アメリカ軍が迫る中、ふじ学徒隊の少女たちに「生きて親元に帰り、戦争の悲惨さを後世に伝えなさい」と言い聞かせ、自らは壕の中で命を絶ちました。

敵に捕まるぐらいなら死を選べと教えられ、多くの学徒隊が自決する中、少佐の言葉を守ったふじ学徒隊の戦死者はわずか3人にとどまり、小池少佐が命をかけて伝えたかった「戦争の悲惨さと平和の重要性、命の大切さ」を現代に語り継ぎました。

6 満蒙開拓 …長野県は全国一の送り出し数

1932年、日本は現在の中国に傀儡国家「満州国」を建国しました。当時、県内の農村は、主要産業である養蚕業の不振や米の価格の低下で、貧しくなっていました。国は、その対策として満州への移民を進めはじめました。県内各地では開拓団が組織され、御牧ヶ原修練農場（小諸市）などで農業などの訓練の後、満州に渡りました。その数は、全国一の3万1千人にものぼりました。

終戦直前のソビエト連邦（現ロシア）の参戦で、満州は戦場となりました。成人男性は軍隊に入っていたため、開拓団に残された女性、子ども、老人たちは逃げまわりました。開拓団が来たことで土地を追い出され恨んでいた現地住民の略奪や襲撃にもあい、各地で集団自決などの悲劇が起こりました。

難民となってたどりついた収容所生活でも、戦後、飢えや寒さ、病気で多くの人々が亡くなりました。長野県出身者のほぼ半分、1万5千人近くの人々が命を落としました。この混乱の中で、肉親と別れ中国の養父母に育てられた幼い子供や、やむなく中国に残ることとなった中国残留邦人の問題が生まれました。

皆さんの住む地域からも、多くの人が、満州へ渡っていきました。

当時の地図

写真6「満蒙開拓平和記念館」（阿智村）学校見学の様子

写真7「桔梗ヶ原女子拓務訓練所」跡

7 満蒙開拓青少年義勇軍

国は、満州移民を進めるため、満14才から18才の青少年を募集し、開拓団に送り込みました。全国から10万人余、長野県からは全国最大の6千5百人が渡りました。戦争末期には、現地で兵士となり、多くの犠牲者を出しました。また、満蒙開拓義勇軍や独身開拓者の花嫁とするための訓練施設である「桔梗ヶ原女子拓務訓練所」（塩尻市）が設置されました。

8 朝鮮半島から動員された人々

労働力の不足を補うため、当時植民地であった朝鮮半島から多くの人々が連れてこられました。県内では、長野市松代の地下壕（「松代大本営」）、松本市の陸軍松本飛行場、里山辺地下工場等の工事、農地開拓などで、苦しい作業に従事し、その方々に耐え難い苦しみと悲しみを与えてしまいました。

写真8 松代地下壕入口